

恕の心



令和4年9月26日 校長 廣瀬 真樹

「聴く」



先週行われた生徒会役員立会演説会の中でこんな公約を言っていた候補者がいました。「この学校の課題は『聴く』ことだと思う。『聴く』ことは学力と比例していると思う」。実は丸内中学校学校研究としてこの「聴く」ことを3年間課題として取り組んできました。生徒からこの言葉が出たことは本当にうれしかったです。今日は少しこの「聴く」ことについて書かせてもらおうと思います。

「きく」というと漢字であれば「聞く」と「聴く」が思い浮かぶと思います。ただし『聞く』と『聴く』の違いをしっかりと説明できる人はあまり多くはないのではないのでしょうか。両者には明確な違いがあり、きちんと意味を理解することで適切に使い分けることが可能です。

「聞く」

耳に入ってくる音や声を『無意識にきく』場合に使います。話を情報としてきく場合も同様です。

【例文】

- ・心地良いBGMを聞く ・体育館から歓声が聞こえる
- ・見聞を広げる ・百聞は一見に如かず

「聴く」

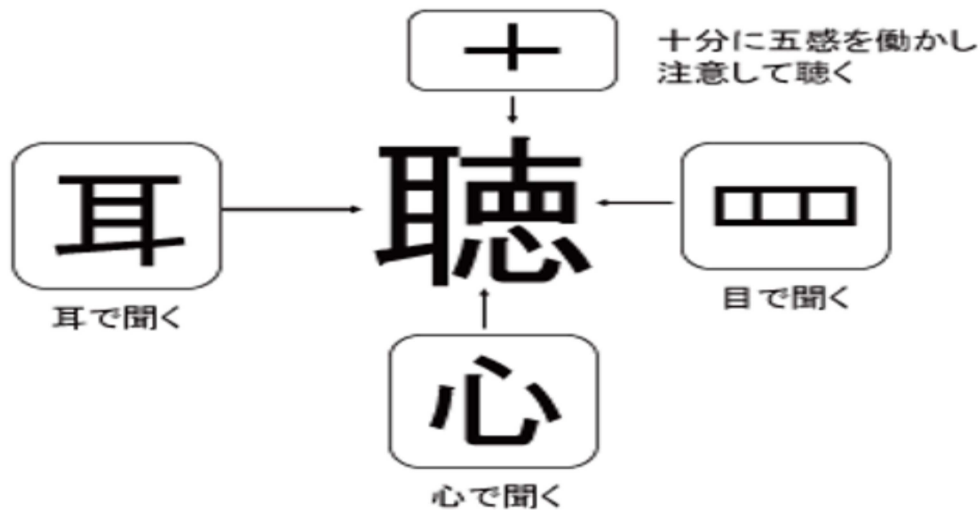
音や声を『注意深くきく』場合に使います。耳に入ってくる音の情報を積極的に理解しようとしているケースで使用します。

【例文】

- ・授業をしっかりと聴こうと思う ・議員が有権者の声を聴く
- ・講演会話を傾聴する

もちろん丸内中学校が求めているのは「聴く」です。

*裏に続く



「聴」という漢字は図のように4つの部分で成り立っています。聞くための身体の部分は「耳」なのですが「目で聞く」「心で聞く」そんな意識が大切で、その気持ちが「聴く」につながっていくのだと思います。

ちなみに「聞く」の英語表現は「hear」です。

【例文】①I heard my name called.

(私は自分の名前が呼ばれるのを聞いた)

②Can you hear the bird singing?

(鳥が鳴いているのが聞こえますか?)

そして「聴く」の英語表現は「listen」です。

【例文】①I'm listening to my favorite music right now.

(私は今、大好きな音楽を聴いているところだ)

②Listen to me carefully.

(私の言うことをよく聴いて)

英語の音を聴くテストを「リスニング」といいますが、私の中学時代は「ヒアリング」でした。英語を聴き取る試験では、能動的に耳を傾ける必要があるため、言い方が変わったのだと思います。

「聴」の右側の部分、惠(とく)には「正しい心」という意味があるそうです。そして「徳」の右側の部分でもあります。

「聴」という漢字は、「徳をもって耳を傾ける」という意味だともいえます。またこの漢字には「聞き入れる」そして「許す」という意味も含まれています。相手の心に寄り添い耳を傾ける。これは「恕の心」にもつながるのだと思います。「聴く」をこれからの学校生活で意識し過ごして行ってほしいです。



